

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（連結）

平成 16 年 1 月 28 日

上場会社名 小林製薬株式会社

（コード番号：4967 東・大1部）

（URL <http://www.kobayashi.co.jp/>）

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 一雅

責任者 取締役 本社統括本部長 田中 正昭（TEL：(06)6222 0210）

1 第 3 四半期業績の概況の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : (中間連結財務諸表作成基準)

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有

(内容)

当第 3 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、当中間連結会計期間末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無

公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2 平成 16 年 3 月期第 3 四半期の業績概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 3 四半期	166,786		13,996		12,584		5,613	
15 年 3 月期第 3 四半期								
(参考)15 年 3 月期	210,922	3.1	15,852	16.3	12,951	7.1	6,605	0.2

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
16 年 3 月期第 3 四半期	132	94		
15 年 3 月期第 3 四半期				
(参考)15 年 3 月期	231	25		

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年第 3 四半期比増減率を示しておりますが、前年第 3 四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

前年第 3 四半期については、第 3 四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

平成 15 年 11 月 20 日付けをもって株式分割(1 株につき 1.5 株の割合で分割)を行っており、1 株当たり第 3 四半期純利益は、株式分割が期首に行われたものとして算出しております。

株式分割が前期期首において行われたと仮定して算出した 15 年 3 月期の 1 株当たり当期純利益は 154.17 円です。

潜在株式調整後 1 株当たり第 3 四半期(当期)純利益は希薄効果を有している潜在株式が存在しないため記載して

おりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期の我が国経済は、製造業を中心に企業収益が改善し、輸出と設備投資を牽引役とした回復基調にあるものの、依然として停滞した雇用情勢や社会保険料の負担増加などの影響により、個人消費につきまちは総じて低調な状況で推移いたしました。

そうした状況の中で、当社グループは経営ポリシーである「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓し、また同時に既存の参入市場に対しても新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めております。

家庭用品製造販売事業におきましては、春に 7 品目、秋に 8 品目の新製品を発売し、売上に貢献しました。カテゴリー別では口腔衛生品及び栄養補助食品の売上は好調に推移しました。一方で、季節に影響を受けやすい商品群の構成が高い医薬品は冷夏・暖冬といった天候不順により低迷しました。

家庭用品卸事業におきましては、市場が拡大している健康食品やコンタクトケア関連商材の売上は順調に推移しましたが、販売構成比の高い医薬品は天候不順の影響で売上は伸びませんでした。

医療関連事業の国内におきましては、販売注力している整形外科関連の骨接合材の売上は順調に推移しましたが、病院の医療制度改革の影響による買い控えや新商品導入の遅れにより売上は低迷しました。しかし、海外におきましてはリスト買収による顧客の囲い込みの結果、売上は順調に推移しました。

以上の結果、当第 3 四半期の売上高は 166,786 百万円、営業利益 13,996 百万円、経常利益 12,584 百万円、第 3 四半期純利益は 5,613 百万円となりました。

なお、当第 3 四半期は四半期決算導入の初年度であるため、前年第 3 四半期との比較分析は行っておりません。